高・大・一般　漢字（隷書）

石坂　雅彦

開元占經（趙之謙）①

（不分故）道徳

今月から趙之謙（一八二九～八四）の隷書「開元占經」に変わります。

趙之謙は一商家に生まれ、十七歳より本格的に学問を始め、科挙の試験に挑戦するようになるが、文や書画の才を認められながらも、その意は達せられず進士（高級官僚）への道は諦め、五十歳で知縣（知事）となる。三十歳の時、洪秀全の反乱が広がり、師や妻子や家を失う。この時より雅号を冷君から悲盦に改めた。この改号の精神が作品の根底にあるエネルギーにも感じられる。この他に无悶の号があり、二金蝶堂、苦兼室等の堂号もある。字は初め益甫、後に撝叔。

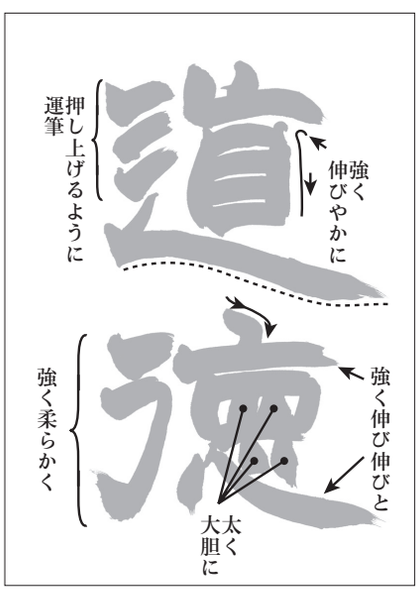
〈今月のワンポイント〉

一点一画強さに執拗に迫ってみよう。これでもか、これでもかの気持ちで書いてみたい。

〈学習上の留意点〉

「道」…波勢のリズムに乗せながらも強い線で書く。最終画は伸びやかにより強く。

「徳」…ぎょうにん偏は強く柔らかく。旁の横画、心の二画目はより強く、より伸びやかに。



高・大・一般　漢字

新(10)級から五段までは作品用紙として画仙紙八ッ切り（68cm×17.5cm）又は、画仙紙半切（136cm×35cm）の出品。六段から八段までは作品用紙として従来通り画仙紙半切（136cm×35cm）のみの出品です。

青山　浩之

〈釈文〉天氣清和

〈意味〉空が晴れ、清らかで穏やかなこと。

〈出典〉西晋・張協「詩」より

〈解説〉

一、古典から学び、表現することを大切にしました。

二、「天氣清和」を題材に選び、晴れやかな明るさのある条幅作品をイメージしました。明るさは紙面や文字の中に生まれる「白」（余白）の清らかさからも表現できます。「白」を意図的に美しく創り出すには草書が好適です。流動的なフォルムの中に、変化に富む余白の美を醸し出しやすいからです。「天」や「氣」は、孫過庭の『書譜』に魅力的な文字が何度も登場します。「清」「和」も集字することができました。運筆の緩急や線の太細、余白の粗密から華やかな躍動感も表現できます。一方で、穏やかさも意図して、懐素の『草書千字文』との融合も面白いと思いました。

三、作品の書き出しは『書譜』の表現をイメージし、力強く大きな運動で世界観を創りました。途中からは『草書千字文』の自然体で穏やかなフォルムをイメージし、最後は両者を合わせたような余韻を残すタッチを狙いました。筆は、柔らかさの中にも強さや深さのある線質を出すために、羊毛筆・長鋒を使用しています。「氣」「和」では、穂の開閉から生まれる渇筆を用い、作品のポイントになるようにしました。草書の特徴は華やかな曲線にあると思いがちですが、それを引き立たせるための直線の存在が重要だと思います。緩急、太細、粗密、潤渇、曲直、様々な「二律背反」を楽しみながら、晴れやかな空のような心地よい作品づくりに挑戦してみてください。